

## 第5章 公共交通計画の事業の実現に向けた取り組みとこれから

### 第1節 事業の実現化状況

滝沢村公共交通計画の策定に先立ち、現在、この計画の中に記載がある内容において具現化（事業化）が進められているものについて、次のとおり示します。

計画内容の実現は、人や財源などの資源的なものの確保に限らず、それぞれの地域に住むみなさんの理解や協力など、意識的なまとまりや姿勢などの発生が必要不可欠であり、そのことが事業化の成否、事業実現の時期などに影響を与えてくると考えられます。

#### 1 IGR巣子駅の開設に合わせた周辺地域の公共交通活性化

平成18年3月のIGR巣子駅の開設を契機として、巣子・長根地区を中心とした地域において、従来から地域の基軸交通を担ってきた路線バスと新たにその役割が増すと考えられる鉄道という2つの公共交通機関の相互の連携を通じ、新たな地域交通の活性化施策を推進します。

##### ◆検討される内容（【 】内は推進体制の構成主体）

##### ①地域内コミュニティバスの運行【三者協働（地域・事業者・行政）】

- ・地域内移動の円滑化、交通安全の確保
- ・公共交通空白地域の解消
- ・巣子駅へのアクセス強化、鉄道との乗り継ぎ
- ・国道沿いの路線バス運行本数の需給バランス調整

##### ②鉄道とバスの共通乗継制度【事業者】

- ・鉄道とバスの乗り継ぎ、連携の強化
- ・路線バスの新価値の付与
- ・公共交通の利用促進による自動車交通量の緩和

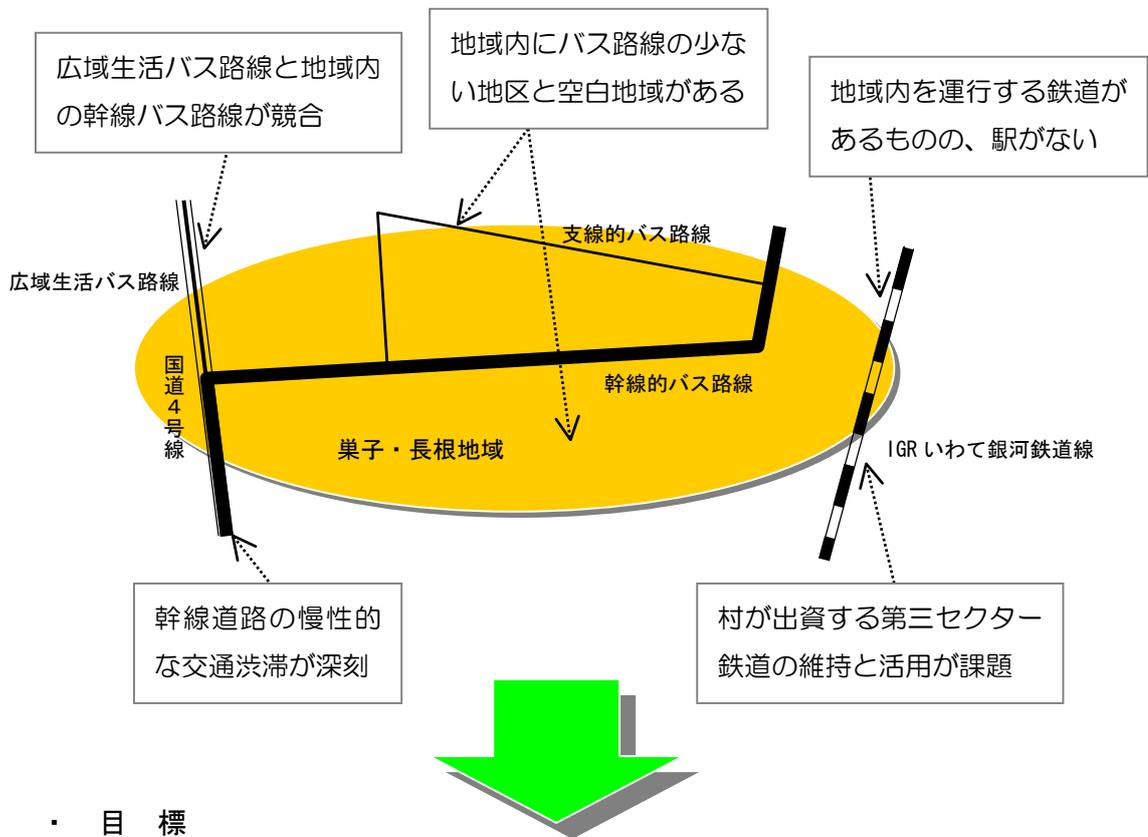
##### ③巣子駅周辺の利用環境整備【行政】

- ・利用しやすい駐輪施設の整備
- ・パークアンドライド向け自家用車駐車施設の整備
- ・送迎やバス及びタクシーの利用に適した駅前広場の整備

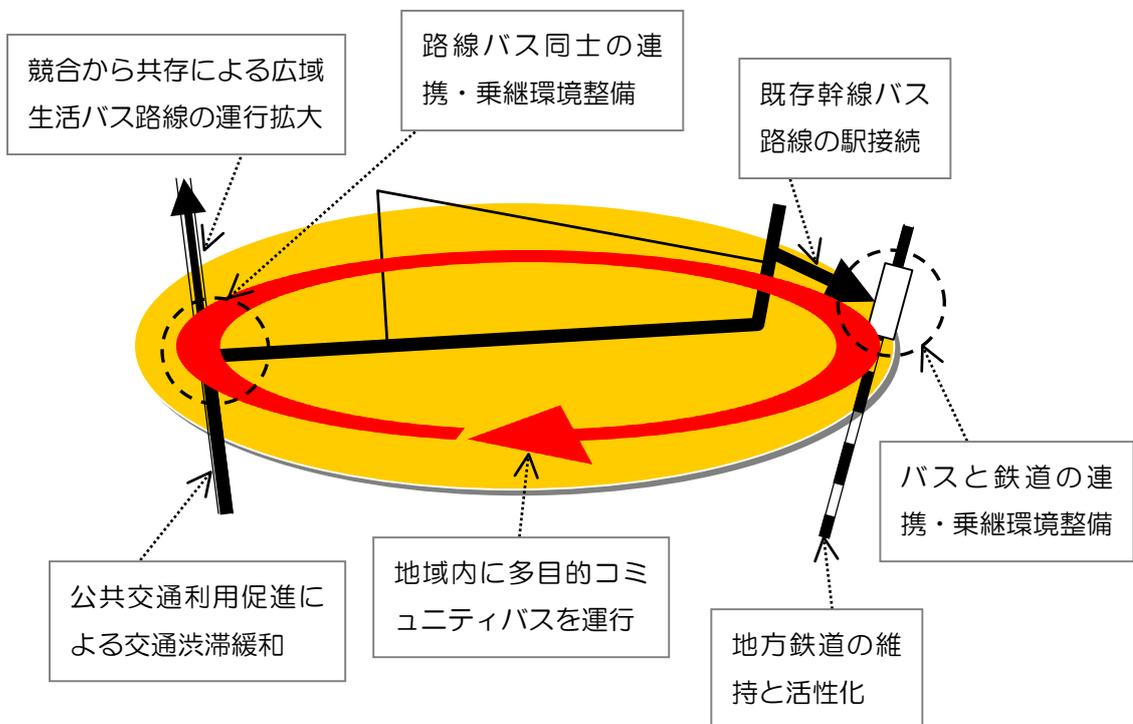
##### ④第三セクター鉄道の維持と利用促進【三者協働（地域・事業者・行政）】

- ・より便利な時刻や本数など設定
- ・利用者や地元住民などによるマイルール意識の醸成と利用促進支援

・ 現 在



・ 目 標



## 2 岩手山麓地域の公共交通維持・活性化

姥屋敷及び柳沢の両地区を中心とした岩手山麓地域では、住居が点在していることによる公共交通需要の分散、移動距離が長くなることによって高額となる現行の公共交通運賃制度などが原因となって、従来の公共交通機関ではあまり利用されませんでした。

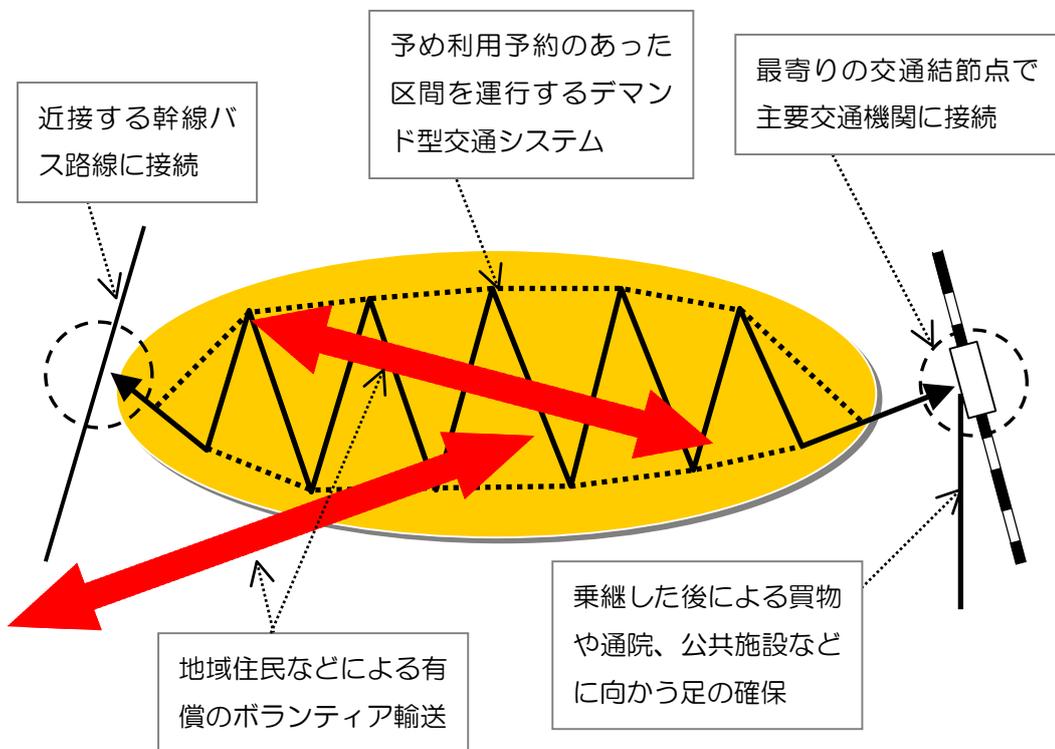
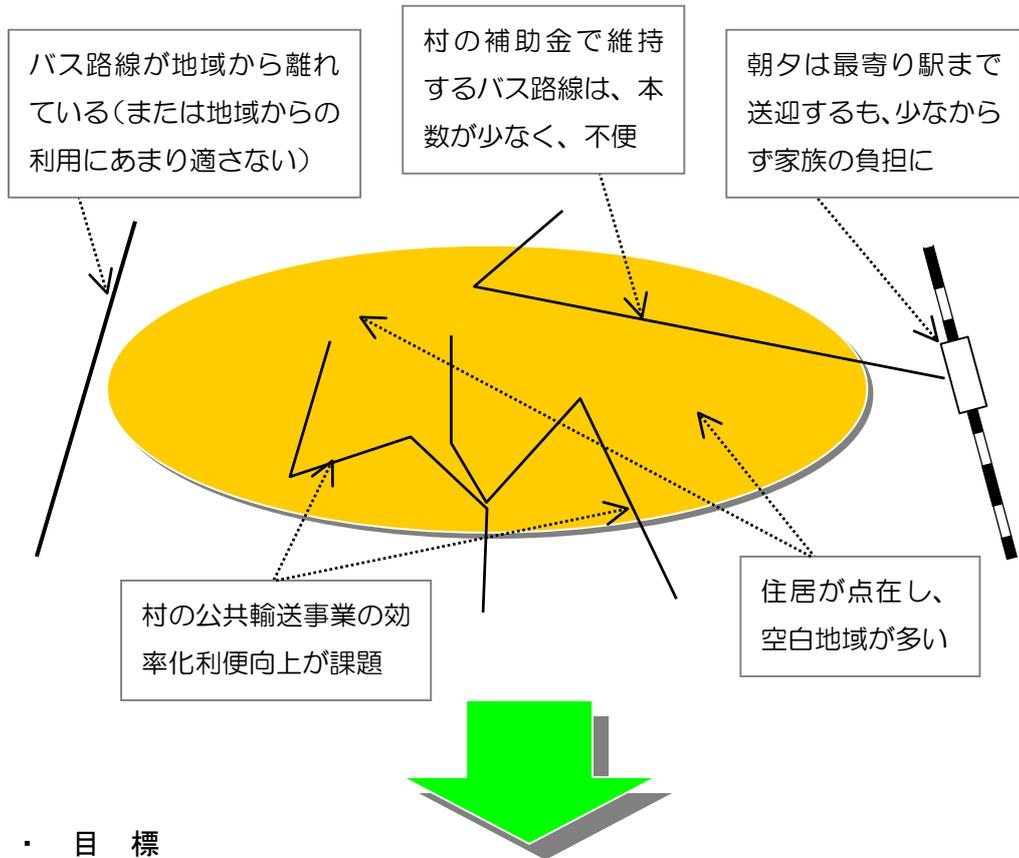
しかし、村の補助金の交付により維持を図っている不採算（赤字）バス路線の利用者の減少に歯止めがかからないこと、患者輸送車及び福祉バスの事業の見直しが必要となっていることなどから、この地域の公共輸送について、あり方を考えていかなければならない時期にあるといえます。

公共交通の空白地域を解消するとともに、これまで制約の多かった村の公共輸送事業に代わる新たな公共交通体系を構築し、これまで以上に使いやすく、より多くの人に必要とされる、持続可能な地域交通を創出します。

### ◆検討される内容（【 】内は推進体制の構成主体）

- ①デマンド型交通システムの整備 【三者協働（地域・事業者・行政）】
  - ・地域内外の移動の円滑化、交通安全の確保
  - ・公共交通空白地域の解消
  - ・既存の輸送形態以上の利便確保、向上
  - ・買物代行サービスなどの付加価値の検討
- ②地域住民などが主体となった有償ボランティア輸送 【二者協働（地域・行政）】
  - ・地域内外の移動の円滑化、交通安全の確保
  - ・公共交通空白地域の解消
  - ・地域コミュニティの活性化、地域内交流の拡大
  - ・買物代行、訪問介護サービスなどの付加価値の検討
- ③他の公共交通機関との連携 【事業者・行政】
  - ・乗り継ぎ場所の整備
  - ・乗継運賃制度の設定、運行時刻の連携の強化
- ④公共交通を活用した地域活性化 【協働（地域・事業者・行政）】
  - ・キャンプや温泉、登山などによる来訪者の足の確保
  - ・地元ガイドを兼ねた有償ボランティア輸送
  - ・地域外交流の拡大
- ⑤地域住民の公共交通維持に向けた意識の醸成 【協働（地域・事業者・行政）】
  - ・公共交通の維持、運営の方策を協議する組織の設置

・ 現 在



### 3 滝沢村が行う公共輸送事業の見直し

滝沢村では、福祉バスと患者輸送車の各事業のほか、不採算（赤字）バス路線を維持するための補助金の交付などといった、公共輸送事業を行っています。

しかし、村の財政状況が厳しくなる中で、何とかそれぞれの事業を維持していこうとするため、運行回数の削減や有償化、一部路線の廃止統合などによって事業費の削減を図ってきました。このため、それぞれの利便性が低下し、利用者が減少するなどといった状況が見られます。

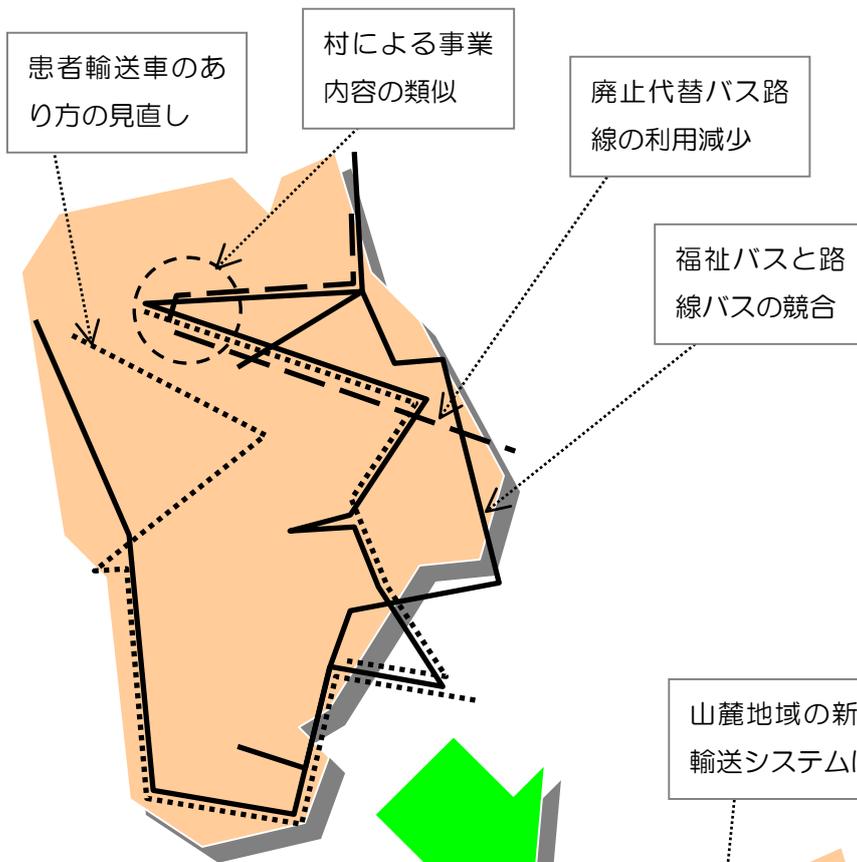
さらには、国による規制緩和が進められたことにより、公共交通の事業を営む既存の民間の交通事業者などは他の事業者による新規参入や経営及び労働環境の悪化などの影響を受けている中、民間事業者による路線バスの運行経路と重複する区間も多い村の公共輸送事業について、見直しを行う必要があるものと考えられます。

このため、既存のバス路線など民間事業者の基盤を活用するとともに、公共交通の空白地域の解消などといった分野に対して村が直接行う公共輸送事業を重点的に展開することなどにより、村では民間が主体あるいは民間と共存を図った、より効率的でより効果的な公共輸送事業に移行を図っていくこととします。

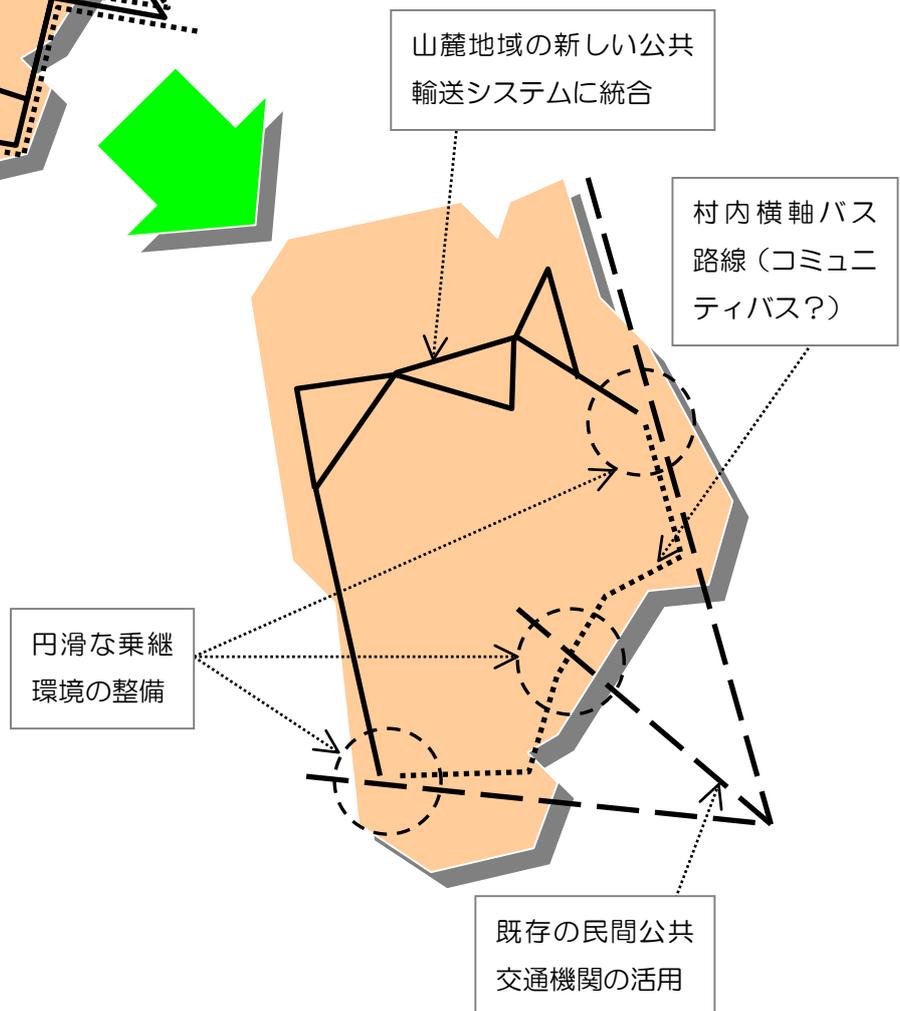
#### ◆検討される内容（【 】内は推進体制の構成主体）

- ①山麓地域における新しい公共交通システムの整備 【協働（地域・事業者・行政）】
  - ・公共交通空白地域の解消
  - ・既存の輸送形態以上の利便確保、向上
  - ・多目的に利用可能な移動手段の確保
- ②平野部における公共交通による横断軸の確保 【協働（地域・事業者・行政）】
  - ・通勤や通学、用務などの村内移動手段の公共交通による確保
  - ・コミュニティの活性化、村内相互間の交流の拡大
  - ・長距離の移動を容易とする運賃負担の軽減
- ③既存の民間公共交通機関の活用と充実 【事業者・行政】
  - ・幹線部分以外におけるバス路線の運行内容の充実
  - ・村内横軸バス路線の接続を考慮した時刻の設定
  - ・路線バス相互の乗継を容易にする運賃制度の創出
- ④抵抗感を軽減させた乗継環境の整備 【事業者・行政】
  - ・公共施設や商業施設など拠点施設を活用した乗継場所の設定
  - ・時刻や運賃など円滑化、負担の軽減
  - ・乗継案内など運行情報提供環境の整備

・ 現在



・ 目標



#### 4 路線バスの運行体系の再編

滝沢村の路線バスは、全国的に路線バスの利用が多かった昭和40年代などから運行されているバス路線では、非常に高い頻度の運行が確保されている一方、近年開発された地域など自家用車が普及して全国的に路線バスの利用の落ち込みが著しくなった後に運行が始められたバス路線では、地域の人口増加に比べてバス路線の運行内容は大きく向上するといった状況は見られません。

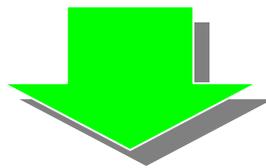
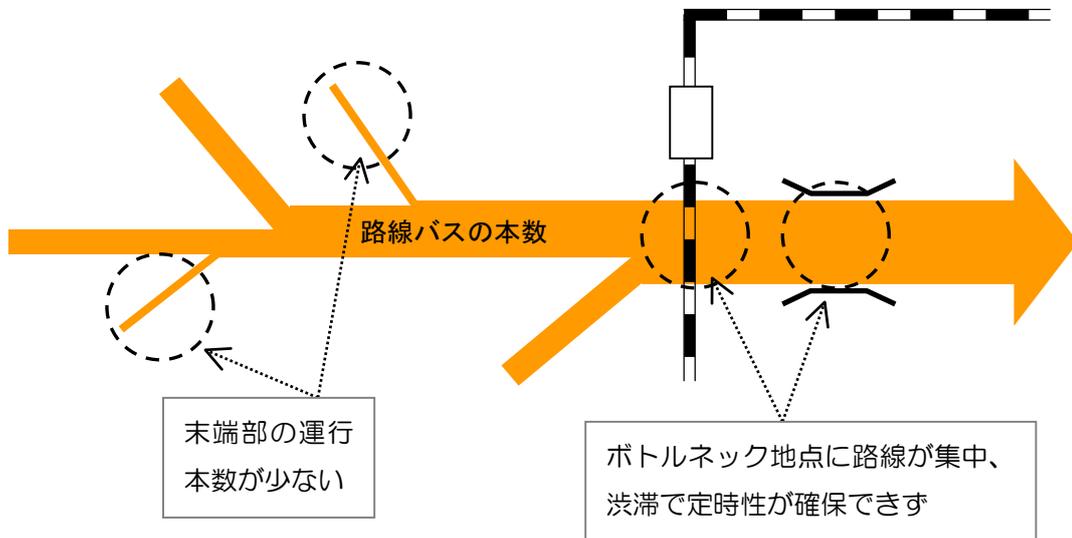
しかしながら、高齢化が進む中では比較的新しい住宅地域であっても高齢者の移動手段確保の必要性は高まっていくほか、環境保護や資源の枯渇などが理由となり地球環境の保全を目的とした自家用車から公共交通への転換などが地球規模で進められようとしている中では、村の主要な公共交通機関である路線バスの役割は今後より一層高まることが予想されます。

このため、路線バスを運行する民間事業者と住民のみなさんと村が協力をして、既存のバス路線の充実を図るとともに、新しいバス路線の開拓や利用環境の改善などを進め、路線バスの利便向上と利用促進を図っていくこととします。

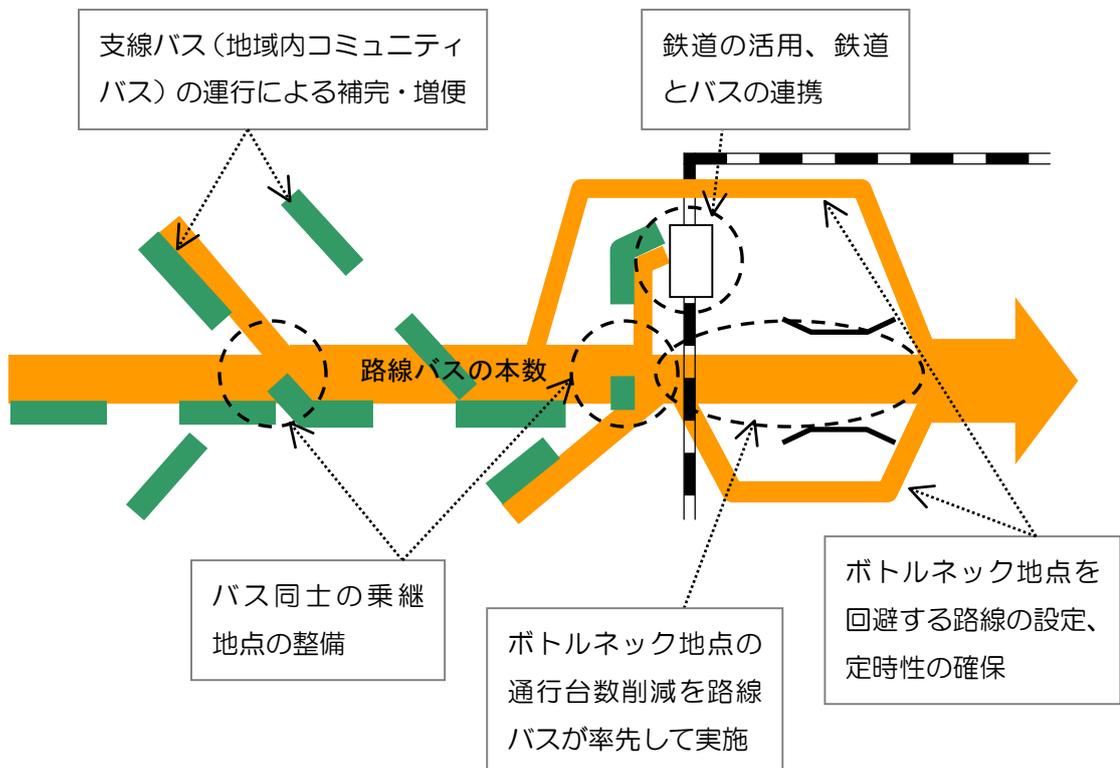
##### ◆検討される内容（【 】内は推進体制の構成主体）

- ①ボトルネック地点の回避など円滑な路線バス走行環境の整備 【事業者・行政】
  - ・ボトルネック地点を回避した路線の設定
  - ・朝夕の通勤時間帯における迂回路線または快速路線の設定
  - ・バス停車帯、バス優先走行レーンなど路線バス運行道路の改善
  - ・ボトルネック地点を中心とした自動車交通量の抑制
- ②地域内コミュニティバス（支線バス）の運行 【協働（地域・事業者・行政）】
  - ・朝夕や日中、夜間など時間帯に応じた柔軟なバス路線の運行内容の設定
  - ・幹線的バス路線との接続や乗継環境の整備、充実
- ③路線バスの運賃体系の見直し 【事業者・行政】
  - ・分かりやすく利用しやすい運賃体系の整備
  - ・長距離利用時の運賃負担の軽減、長距離割引制度の設定
- ④路線バス相互または路線バスと鉄道の連携 【事業者】
  - ・朝夕や日中、夜間など時間帯に応じた柔軟な公共交通体系の確立
  - ・路線バス相互あるいは鉄道とバスの乗継を容易にする運賃制度の創出
- ⑤乗継環境など路線バス利用環境の整備 【事業者・行政】
  - ・公共施設や商業施設など拠点施設を活用した乗継場所の設定
  - ・時刻や運賃など円滑化、負担の軽減
  - ・乗継案内など運行情報提供環境の整備
  - ・乗務員のマナー向上、利用者向けサービスの拡充
  - ・便利なICカードの導入

・ 現 在



・ 目 標



## 第2節 滝沢村の公共交通のこれから

今回の滝沢村公共交通計画では、計画策定から10年後の平成27年度を目標に施策の推進が図られることとなります。しかし、本当に来るべき10年後の未来には公共交通がどのように必要とされ、どのように利用されているのか、そして、どのような公共交通機関が活躍をしているのか、この変化の激しい社会の中ではこの計画による内容が最適なものとなっていくのか分からない部分もあります。

しかしながら、公共交通は現在において、人にも地球にもやさしく、多くの人に必要とされる交通手段であることは確かです。そのため、村では、必要に応じて見直すことも行いながら、住民のみなさんに必要とされる公共交通の施策をこの計画に即して推進を図っていくことが必要であると考えています。

### 1 滝沢村とその周辺における公共交通の将来

滝沢村は、隣接する盛岡市を中心とした都市圏の交通体系の中に位置付けられますが、ここでは都心部の道路交通量が飽和状態にあるということが大きな課題とされてきました。これまでも路線バスの活性化を中心とした施策などが展開され、村内の一部でも一体的に施策が実施されました。しかし、その後も自家用車は増え続け、道路混雑を慢性化させているほか、定時性の確保に苦慮する路線バスの利用者数は緩やかに減りながらも減少を続けているのが現状です。

この都心部の道路混雑の問題は、自家用車を移動手段の中心とする住民の消費行動の郊外化を助長させ、その結果、中心市街地が空洞化し、都市並びにその周辺部の魅力や拠点性の低下などを招くことにつながっていきます。

また、盛岡市以外の近隣市町村を結ぶ交通体系では、人口の都市部への流出が続く、路線バス及び鉄道の利用者の減少に歯止めがかからず、バス路線の維持には国や県、沿線市町村の補助金が不可欠になる一方、村内の通過も含めた道路交通量の減少は見られず、道路混雑や交通事故発生などの要因となっています。

このようなことから、この公共交通計画にある施策の推進を含め、公共交通の維持と利用促進を図っていく上では、広域圏の交流が拡大していることに着目し、広域市町村が今後より一層結束を固め、道路混雑や中心市街地の空洞化、過疎化、少子高齢化などといった課題を共有することにより、その解決に向けて協調して取り組んでいくことが求められています。

このことが、県庁所在地である盛岡市を中心としたこの都市圏の拠点性、そして魅力を高めるとともに、東北地方さらには日本国内における地域間競争において優位性を発揮することができることによって、この地域の発展を維持していくことにつながっていくものと考えられます。

## 2 行政の施策としての公共交通

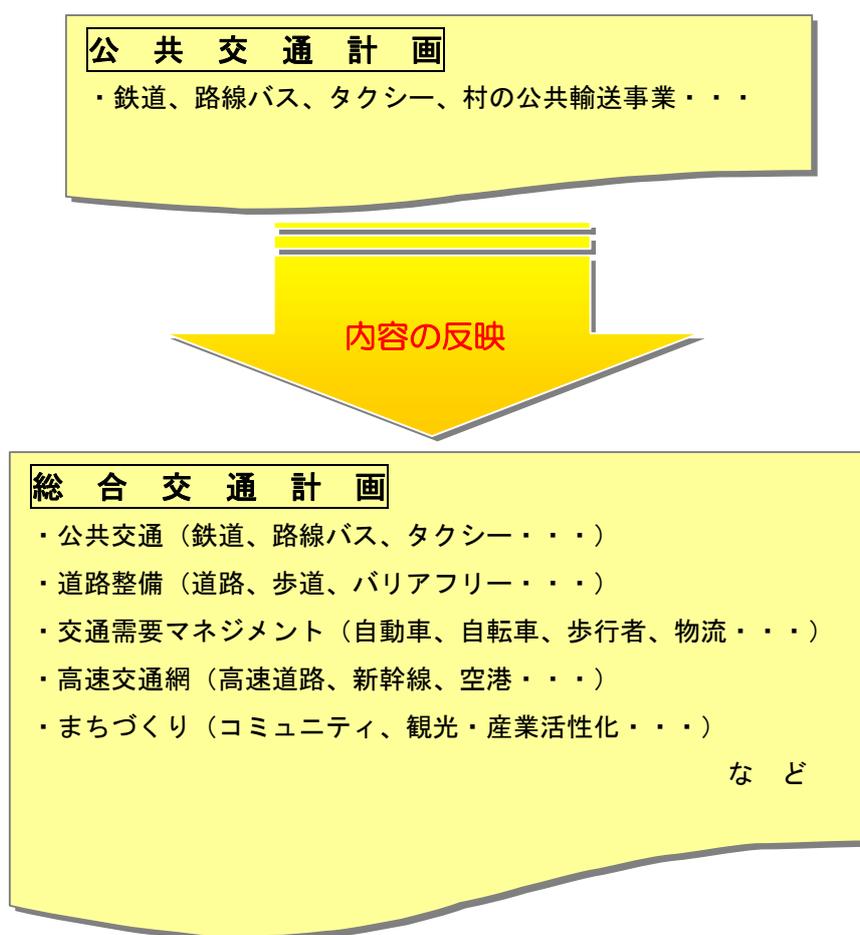
これまでの公共交通は、その存在が当たり前と考えられてきたことなどから、市町村によって政策的位置付けや対応にはばらつきが見られました。

しかし、自家用車の普及や利用者の減少に伴い、近年急速に公共交通網の縮小が進んだことにより、多くの市町村では公共交通の維持、利用促進などが課題として顕在化し、その対応が多方面から求められるなど、重要性が増してきています。

また、交通渋滞の悪化や中心市街地の空洞化、少子高齢化社会の到来などによって、総合的にまた体系付けられた交通政策の推進が必要となってきました。

このため、今後においては、公共交通のほか、道路や自転車、歩行者、物流なども包括した総合的な交通政策の計画を策定し、その取り組みが進められていくことになるものと考えられます。

なお、総合交通計画の策定、推進にあたっては、滝沢村が単独に取り組むものというのではなく、この地域の総合交通体系が広域的に形成されているという現状から、周辺の市町村と連携を図った取り組みが必要であるものと考えます。



### 3 住民が主体となった持続可能な公共交通の確立を目指して

これまでも触れてきたとおり、その地域にとって必要な公共交通を選択し、維持を図っていくためには、その地域に住むみなさんの興味・関心や協力、行動が不可欠になっていきます。

行政側は地域の魅力を向上させるとともに多くの人々に居住地として選ばれる地域づくりを進めていく中で公共交通施策についての検討が進められてきましたが、やはり実際にその地域に住んでいる人々の声からこそ、最も効果的な公共交通施策が見出されていくものと考えられます。

そして、その施策の実施も、行政側が主導して進められるものではなく、地域側の主導によって積極的に進められることにより、より長く継続することが可能な公共交通システムの確立に結びつきます。

このため、みなさんが住む地域が、公共交通による移動手段が確保され、いつまでも長く安心して暮らすことができる地域であり続けるためには、地域に住むみなさん一人ひとりが地域の足の確保という課題に立ち向かい、行政や事業者などとの協働によって積極的に行動をしていくことが、今、求められています。